

ステークホルダー諮問委員会 (SAC) ミーティング議事録  
 プラウ・パダンコミュニティとのステークホルダー・フォーラム  
 プラウ・パダン 2016年1月13日

SAC 委員	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジョー・ローソン (議長)</li> <li>2. アル・アザール</li> <li>3. ブディ・ワルダナ</li> <li>4. ジェフリー・セイヤー</li> <li>5. ルスマディヤ・マハルディン</li> <li>6. ニール・バイロン博士 (委員候補)</li> </ol>
コミュニティ代表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. タンジュン・パダン村</li> <li>2. プトゥリ・プユ村</li> <li>3. メカール・デリマ村</li> <li>4. デダップ村</li> <li>5. クダップ村</li> <li>6. バガン・メリブー村</li> <li>7. ルキット村</li> <li>8. テルク・ベリトゥン区</li> </ol>
開催日	2016年1月13日
開催地	プラウ・パダン プトリ・プユ村
議題	<p><b>A. 開会の挨拶：</b></p> <p>1. ルディ・ファジャール (RAPP/エイプリル社)：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- エイプリル社には SFMP (持続可能な森林管理方針) 2.0 がある。</li> <li>- SAC は、第三者委員会であり、同社の方針実施を監視し、アドバイスする役割を担う。</li> <li>- このミーティングの目的は、生活用農園開設、コミュニティ開発 (CD) プログラムなどの同社の誓約について、関連するコミュニティと直接話し合うことである。</li> <li>- SAC はまた、同社が今後取り組みを期待される課題や、コミュニティ代表者の意見が聞けることを期待している。SAC ミーティングでそれらを協議し、同社に対する SAC の提言の一部とすることもある。</li> </ul>



## 2. ジョー・ローソン (SAC 委員長) :

- SAC は、エイプリル社の方針とその実施状況や、同社とその業務に関連する問題を監視する役割を担う。
- SAC は今年から、ミーティングを増やし、ステークホルダーと直接話し合う。
- SAC は、生活用農園開設の遅れや、それに関連する問題など、今取り組むべき課題について意見を聞きたいと考えている。

## 3. ファールロチ (タシク・プトリ・プユ地区長)

- タシク・プトリ・プユ地区におけるエイプリル社の存在は、同社によるコミュニティ開発プログラムへの支援、2015年のバンドル村での火災の消火支援など、現地コミュニティに発展を数多くもたらしている。
- 同社が行った、タンジュン・パダン村とプトリ・プユ村をつなぐ 12km の道路の建設に謝意を表明する。
  - タシク・プトリ・プユ地区は、プラウ・パダンで最も新しい地区であるため、この地区の発展には、地元自治体と民間企業との相乗効果による継続的な支援を必要とする。
  - プトリ・プユ、メカール・デリマ、デダップからの交通の便として 5km の道路の建設を要望する。村の発展とタシク・プトリ・プユ地区のすべての村で生活用農園開設を迅速に実現するためにこの道路が不可欠だからである。

## B. 生活用農園開設に関する協議概要

- 政府の新しい方針により泥炭地エリアでの開墾が禁じられているなどの理由から、プラウ・パダンでの生活用農園開設が遅れているが、これを早期に実現しなくてはならない。SAC は、生活用農園開設を推進するための提言を行ってきた。この問題を、第三者泥炭専門家ワーキンググループ (IPEWG) に伝える。
- 現地コミュニティとの互いの合意に基づき、生活用農園として、天然ゴム農園を開設することが決定された。これが現地コミュニティの発展に役立つことが期待される。
- バガン・メリブー村の代表は、エイプリル社のコンセッションとの境界設定のプロセスを、すべての村との間で解決する必要があるとして、生活用農園開設を拒否している。
- 現地コミュニティは、生活用農園開設の実現過程で NGO の支援を期待している。

## C. コミュニティ開発 (CD) プログラムに関する協議概要 :

- プラウ・パダンの複数の村で CD プログラムが実施された。ひとつの例として、エイプリル社が、タンジュン・パダン村とプトリ・プユ村をつなぐ 12km の道路を建設したことが挙げられる。今後、コミュニティは、同社がプトリ・プユ、メカール・デリマ、デダップからの交通の便として 5km の道路を建設することを望んでいる。
- 現地コミュニティは、今後、CD プログラムが土地利用と経済生活の改善に向けたものとして発展していくことを望んでいる。これには、女性の参加、医療支援、清浄な水の提供、種子の提供、現地コミュニティが



STAKEHOLDER  
ADVISORY  
COMMITTEE

生産する製品に対するマーケティングノウハウの提供が含まれる。

- 提言: 同社による CD プログラムをすべての村で平等に実施し、すべての村で恩恵を享受できるようにする。コミュニティも、CD プログラムやコミュニティへの支援に対して、より高い透明性を期待している。

#### D. 森林火災に関する協議概要 :

- コミュニティは、森林火災が起きた場合に、コミュニティ消防団が効果的に消火活動を行えるよう、エイプリル社に設備・インフラ整備、消火活動の支援を望んでいる。
- 同社は、プラウ・パダンのすべての村で、引き続きコミュニティ消防団プログラムの支援と改善を続ける。火災鎮圧のためのインフラストラクチャーの支援は、デダップ村に 300 メートルのホースと「ロビンマシン」ポンプを提供するという形でも行われている。
- 森林火災防止について、同社は村役場と連携して広く一般に知ってもらい、共同パトロールを実施する。

#### E. その他の問題 :

- 環境関連の問題のひとつとして、コミュニティのココナッツ農園とサゴ農園が特定の害虫の被害に遭っていることが挙げられる。この害虫がどこから来たのか、木材植林地または森林火災の副次的影響によるものなのか、いまだに不明である。
- プラウ・パダンの村落間の境界設定、特にタシク・プトリ・プユ地区とメルバウ地区間については、現在も最終決定のプロセスにある。今のところ、最終決定のプロセスに、すべての村民が参加しているわけではない。
- 村のひとつ（ルキット村）では、雨期になると用水路から水が溢れ出て、いまも洪水にみまわれる。
- エイプリル社は、現地コミュニティと請負業者に対し、より多くの雇用機会を提供する必要がある。

#### 次回のステークホルダー・フォーラム会議 :

場所 : インドネシア、リアウ州

日時 : 未定